

中国語

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

令和4年度の共通テスト「中国語」の受験者は605人で昨年度の639人に比べて34人減少したが、「外国語」受験者から見ると0.13%であり昨年度と変わっていない。今後も大学側がより一層中国語を入試に活用することが求められている。引き続き高等学校で中国語を学んだ高校生が進学に活用できる客観的な水準設定が望まれる。

令和4年度共通テストを以下の3点をよりどころに、また、14ページに記載の8つの観点によって、総合的に検討・評価に当たることとする。

- (1) 共通テストは「高等学校の段階における基礎的な学習の達成の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力について把握することを目的としている」試験であるという観点に立ち、学習指導要領「外国語」の目標を重視する。

その際、大学教育の基礎力を踏まえ、また、高等学校において英語以外の外国語を初めて履修する者もいることを考慮し、問題作成を行う。

- (2) 教育現場からの「高等学校における学習の成果が総合的・客観的に判断できる出題」となっているかについて、従来からの「基本的要望」が尊重されているかを重視する。

- ① 細かすぎる難解な語法を問うことはせず、基本的な文法力を問うこと。
- ② 長文読解は、高校生になじみやすいテーマを選び、内容が抽象的すぎ、論理的に説明が難しいような出題は避けること。
- ③ リスニング試験が実施されないことを補うために、ピンインを重視して出題すること。

- (3) 令和3年度の問題作成部会の見解を参考とすること。

2 内容・範囲

第1問 A～Cは昨年度と同じく発音の基礎を確認する問題であり、Dはピンインで示された会話文の流れを把握し、抜けている会話文を選択する問題である。リスニング問題を補う問題として、ピンイン学習とともに実際的なコミュニケーションも重視する傾向がある。

第1問 計9問 (計36点)	A	B	C	D
	声母	韻母	声調	ピンインによる会話
	8点(4点×2問)	8点(4点×2問)	8点(4点×2問)	12点(4点×3問)

A 昨年同様、見出し語の下線部の声母(子音)と同じものが選択肢の中にいくつあるかを選ぶ形式であった。提示された語句はみな重要語であり、声母を問う問題として適切である。

問1 sh・s・xの音の識別を問う問題。見出し語も選択肢も重要語であり、適切である。

問2 無気音の“z”有気音の“c”との判別だが、間違えやすい他の声母(zhなど)を入れても良かったと思われる。

B 韻母(母音)に関する出題である。見出し語も選択肢も重要語であり、適切である。

問1 “üan”と“ian”の判別であるが、“ün”, “uan”も入れるなど工夫できたように思われる。

問2 “iu”と“ou”の判別であり、適切である。

C 二音節語について、見出し語と声調の組合せが同じものの数を問う問題である。

問1 見出し語も選択肢も重要語であり、適切である。

問2 見出し語も選択肢も重要語であり、適切である。

D 文は会話文と選択肢共にピンインで示してあり、各問の会話文、選択肢共に難解な語句はなく、ピンイン学習を重視する出題となっており評価できる。

問1 “Nà kě bù yíding. 那可不一定。”「そうとも限らない」という文の流れを正しく捉えることが要求される出題で、良問である。

問2 “Nǐ hái yǒu huàn de yìsi. 你还有换的意思。”からマイナスイメージの選択肢を選ぶことは容易であり、選択肢に工夫がほしいところである。

問3 “Tàiyáng cóng xībian chūlai le! 太阳从西边出来了!” の理解を問う問題であり、適切である。

第2問 形式・配点共に昨年に変更されたとおりの出題である。

A 適当なものを選ぶ空欄補充の問題。類義語の知識を要求され、慣用的用法の理解を測る面が強い。選択肢はいずれも重要語であり適切である。

問1 「この子にとって良くない」という意を表すように語句を選ぶ問題であるが、意味としては“好处”が適切だが、“没有什么好处”のように使われることが多く、“多大”と組合せは少ないように思われる。一考を要する。

問2 動詞である“等于”を選ぶ、基礎的な文法の理解を試す適切な問題である。

問3 “习惯”を目的語にとり、アスペクト助詞の“着”を使った表現の理解を確認する良問である。

B 類義語を問う問題であるが、「適当でないもの」を選ぶという設問形式は難度が高くなる。選択肢はいずれも重要語である。

問1 「残された時間を～する」という文脈で適切な語、また結果補語の用法を問う適切な問題である。

問2 “全面”の語法の理解を確認する適切な設問である。

問3 “看不～”の形の可能補語の用法の理解を試す良問である。

C 短文の中の空欄に適切な語を8つの選択肢から選ぶもので、文脈の中でより適切なものを選ぶ必要がある。「子犬を散歩に連れて行く」、「いつも気にかける」という基礎的な語句を使った表現の理解を見る適切な問題である。

第3問 和文中訳、中文和訳を通して、中国語の表現力、理解力を測る問題である。設問形式は昨年度と同じであるが、設問数は1問少なくなった。単語の難易度は高くなく学習してきた文法事項や語法を活用、応用し、熟考することにより正答できる設問になっている。

Aは、和文中訳問題で、与えられた8つの単語から4つ選び並び替えるもので、選択肢の語句も重要語の範囲内であり、文法や語句の用法の理解を確認する問題として適切である。

問1 日本語から“白等”を導き出せるかを問うもので、適切な出題である。

問2 「ずっと～ではいけない」は“由”、“照”の介詞の用法の違いだけでなく表現として使いこなせるかを見る点では適切であるが、高等学校からの学習者にとっては少し難易度が高いかと思われる。

問3 “该有的都有”という表現を問う基本事項を押さえた良問と言える。

B 示された和文に相当するピンインで記された中国語を選ぶ問題で、素直な出題である。

問1 は二重否定の用法をみる設問で、選択肢にも工夫があり、適切である。

問2 は反語の用法を見るもので、選択肢にも工夫があり、適切である。

C ピンインで示された中国語文に相当する日本語を選ぶ出題である。

問1は、“一个接一个”“怎么～才”を訳せるかで、基本的な学習事項を押さえた良問である。

問2 “省点儿钱”の選択肢の訳にも工夫があり、良問である。

第4問 会話文、表やグラフから複合的に分析したり、図を対照し会話文・議論等から総合的に判断したりする融合問題2題である。形式は昨年と同じである。

A 様々な国の人名に関する会話、調査した表、グラフを適切に理解しているか問う設問。

問1 会話文の内容として適切なものを2つ選ぶ問題。内容は多様な国際社会を意識したものでメッセージ性がある。難しい語句はなく、丁寧に読めば正答できる適切な設問である。

問2 各人名についてまとめた表が示され、問1の会話文と突き合わせて考える設問である。

問1の内容から更に発展して思考していく作りになっている良問である。

問3 問1、問2の内容に更にグラフが加わり、3種類の資料から正しく表現されている文を選ぶ問題である。適切な設問であると考えられるが、適当なものを2つ選ぶ形式は問1と同じであるので一考を要すると考えられる。

B 新旧の地図が示され、それを見比べた高校生の会話やこれからの市の在り方についての議論を正しく把握しているかを試す設問である。

問1 会話の内容と地図を対照し、中国語の質問に対する答えとして適切な文を選ぶ問題である。複合的な資料に基づく思考力を試す良問であるが、(2)は文の表現が単純であり解答が容易であったと思われる選択肢に工夫が必要と思われる。

問2 議論された後、その内容をまとめる思考を問う良問である。

第5問 人工知能と囲碁の棋士との対局から人類とAIの関係に言及した評論文の読解の問題。

問1 下線部の意味を単に問うだけでなく、文章の前後からの意味を問う問題で適切である。

問2 「囲碁の大帝」と呼ばれた中国の棋士柯洁が思う言葉として“仍然”の意味を理解し、前後の読み取りを見る良問である。

問3 副詞“几乎”の用法を見る設問で、やや難解であるが、適切である。

問4 “连～都”と結果補語の訳を見るもので、選択肢も工夫があり、適切である。

問5 柯洁が回想して自己分析している内容として“让人无可奈何”を読み取るもので、選択肢もバリエーションがあり、良問である。

問6 空欄に適切でないものを選ぶもので、意味用法を問うもので、適切である。

問7 “人作为人的意义又是什么呢?”“人が人としての意義は一体何なのか”という直訳を問うのではなく、前後の関係から何を表すのかを考えさせる良問である。

問8 補語の用法を見るもので、やや難しいが、適切である。

問9 文章理解を見る問題で、人類と人工知能との関係についてのまとめの部分であり、内容をきちんと捉えられるかを試す良問である。

問10 文章を的確に読めていれば正答できる良問である。文章の内容理解を問う適切な設問である。

3 分量・程度

(1) 分量

今年度は第5問が33字×29行約920字となり、文章量については昨年度の共通テストと比べ更に増えたと言える。第4問で文章と資料・会話を組み合わせた問題となり、読む量が大幅に増えた。これは共通テストに移行した以降の全体的な傾向であり、長文読解については、多くの情報を含む文章を理解し考察する能力を試す設問が求められるが、80分の試験時間を考えると、現

時点での文章量・難度を維持していただきたい。

(2) 程度

内容的には今年度の設問は、高校生にとって難解なレベルのものは多くないが、第4問は、多文化的な題材から思考させるものになっており評価できる。第5問も人工知能に触れた興味深い内容であり人間の行動も描かれ抽象的すぎず適切であると言えよう。

4 表現・形式

全体の出題形式を見ると

内容	発音・ピンイン	語句	表現力	複合的な資料の読み取り	長文読解
設問	第1問	第2問	第3問	第4問	第5問
設問数	9	7	7	8	10
配点	36点	32点	28点	52点	52点

作文問題が1問減った分、マーク数が2個減っている。

5 要 約

令和4年度共通テストは、設問形式や内容、単語の選択において高校生レベルの出題が多く、思考力、総合的な判断力を問いながらも高等学校から中国語を学び始めた受験者を意識した出題者の工夫が感じられた。

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
受験者数	482	558	574	665	667	625	599 (-26)
平均点	158.02	164.91	154.90	150.89	167.41	160.34	164.79 (+4.45)

受験者数の全体から見た割合は横ばいであり、外国語における中国語科目の社会的なニーズは引き続き大きいことを示していると考えられる。内容的にも「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」に基づいている高等学校3年間で学ぶ中国語のレベルに近づいてきたと考えられる。今後も共通テストの科目として有効に活用されることを希望する。全体としては概ね適切な問題だったが、今後の出題として以下の点にご考慮いただきたい。

- ・ 今年度高得点だった設問を次年度に難易度を極端に上げないようにしていただきたい。
- ・ 第1問の単語の知識を問う問題では、日頃学んでいる見慣れた単語を選んでいただきたい。
- ・ 高等学校から中国語学習を始めた生徒たちが「是非受験したい」と思う出題をお願いしたい。
- ・ 今年度の報告書に則して、高等学校における学習の成果が総合的・客観的に判断できる出題を今後ともお願いしたい。